２０２３年（令和５年）　６月１３日　火曜日

デーリー東北　１０面　掲載

光星 春の東北王者に

仙台育英に競り勝つ

【決勝・八学光星－仙台育英】8回八学光星1死一、二塁、長谷陸翔が左中間に2点適時二塁打を放ち、3－1と勝ち越す＝きたぎんボールパーク

高校野球 春季東北大会

決勝

八学光星	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
仙台育英	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2

（八）洗平、岡本－藤原
（仙）湯田、田中、高橋、仁田－尾形
▷本塁打　洗平（八）
▷三塁打　砂子田（八）▷二塁打　長谷（八）湯田、齋藤陽、齋藤敏（仙）
▷試合時間　2時間37分
（球審＝高橋、塁審＝長内、加倉、藤田）

第70回春季東北地区高校野球大会最終日は11日、盛岡市のきたぎんボールパークで決勝を行い、青森県第２代表の八学光星が仙台育英（宮城①）と対戦。３－２と接戦を制し、14大会ぶり２度目の東北王者に輝いた。（千葉達也、大西桂介）

【評】八学光星が接戦を制した。二回、洗平の本塁打で先制。１－１の同点で迎えた八回、走者２人を置いて長谷が適時二塁打を放ち、勝ち越しに成功した。先発洗平は８回⅔を２失点としのいだ。仙台育英は好機で、あと一本が出なかった。

14大会ぶり２度目

４番の意地 長谷が決勝打

ハイライト

「チーム一丸」力投洗平支え

八学光星が、昨夏の甲子園覇者・仙台育英に競り勝ち、14大会ぶりに春の東北王者に輝いた。八回に勝ち越し適時打を放った長谷陸翔は「チーム一丸となって勝つことができて良かった」と喜びをかみ締めた。

頂点を決める大舞台で先発したのは洗平比呂。積極的に強振してくる相手打線に対し、真っ向勝負を挑んだ。伸びのある直球を軸に、変化球を低めに集めた。自身のソロ本塁打で先制した後の四回には、不運な内野安打で同点に追い付かれたが、味方の反撃を信じ、懸命に腕を振り続けた。前日の準決勝では守りでミスが相次いだが、この日の守備陣は無失策と、力投する洗平を盛り立てた。

試合が動いたのは八回。1死二塁で、今大会好調を維持する中澤恒貴が申告敬遠で歩かされた。勝負を挑まれたのが4番の長谷。「悔しい思いもあったが、その分気持ちが入った」

相手の2番手左腕が投じた外のカーブに食らい付き、値千金の勝ち越し適時二塁打。普段はあまり感情を表さない長谷も、この時ばかりは塁上で思わずガッツポーズが飛び出した。

新チーム発足後、すぐに迎えた昨秋の青森県大会は初戦負けだった。仲井宗基監督は「まだまだ完成形ではないが、夏につながるようなゲームになった」と総括。選手たちの視線も既に甲子園が懸かる本番に向いている。長谷は「全員主役で頑張っていきたい」と闘志をみなぎらせた。（千葉達也）

【八学光星】		打	安	点	振	球
⑧	砂子田	4	1	0	2	1
⑦	青木	3	0	0	1	0
⑥	中澤恒	3	0	0	0	2
⑨	長谷	4	1	2	1	0
⑤	池田	3	1	0	1	1
②	藤原	4	1	0	0	0
③	新城	4	2	0	1	0
①	洗平	4	1	1	0	0
1	岡本	0	0	0	0	0
④	西尾	2	1	0	1	1
H	中澤惇	0	0	0	0	1
R	川島	0	0	0	0	0
4	大川	0	0	0	0	0

犠盗失併残
2 1 0 3 9　31 8 3 7 6

【仙台育英】		打	安	点	振	球
⑧	橋本	3	1	0	1	1
⑥	山田	3	0	0	1	1
⑤	湯浅	4	1	0	0	0
⑨	齋藤陽	3	2	1	1	1
③	鈴木	3	0	0	0	1
⑦	濱田	4	1	1	1	0
④	住石	2	0	0	2	0
H	下山	1	1	0	0	0
R4	登藤	0	0	0	0	0
H	細田	1	0	0	0	0
①	湯田	2	1	0	0	0
H	伊藤	1	0	0	0	0
1	田中	0	0	0	0	0
1	高橋	0	0	0	0	0
1	仁田	0	0	0	0	0
H	齋藤敏	1	1	0	0	0
R	浅面	0	0	0	0	0
②	尾形	3	0	0	1	0

犠盗失併残
1 1 1 1 7　31 8 2 7 4

投手	回	打	安	振	球	失
洗平	8⅔	35	8	7	4	2
岡本	⅓	1	0	0	0	0
湯田	7	27	6	7	2	1
田中	⅓	4	1	0	2	2
高橋	1⅓	7	1	0	2	0
仁田	⅓	1	0	0	0	0

優勝した八学光星のメンバー

デーリー東北新聞社提供